

D 3 だんらん室とのかかわりからみた食事室
香蘭女短大(非常勤) 久保 加津代

目的 だんらん室にはかなりの接客行為が入りこんでおり、しかもそのことが居住者に積極的に評価されていることをみてきた。本報ではさらに食事室の実態・食事室観をあきらかにし、だんらん室のあり方を考察することを目的とする。最近ではデュアルリビングの提唱がなされたり、LD型式の流行・カウンター型キッチンの出現などがみられだんらん室と食事室とのかかわり方が注目されている。

方法 これまで建売住宅・集合住宅など比較的ライフステージの低い世帯を中心に分析が進められているので、ライフステージの高い世帯を、との配慮から福岡市内の家政系女子短大生をむつ世帯144を対象にアンケート調査を行った。同時に女子短大生に意識調査を実施した。(有効票129) 調査時期 1982年6月

結果

- 1 冬季・朝食と夕食とで食事室を移動しているものが約 $\frac{1}{3}$ みられ、ほとんどがDK(椅子式)から茶の間(座式)への移動である。
- 2 冬季に夕食をとる部屋とだんらん室とが重なるものは6割以上にのぼり、ほとんどが茶の間(座式)を利用している。
- 3 女子短大生の希望をみると、実態とはうらはらに、だんらん室と食事室とは一体感を保つが別室がよいというものが多し。
- 4 女子短大生の食事室のイメージは10畳以上位のDK(従来型)で、椅子式、明るい南向きというものである。